

## ギラン・バレー症候群

相変わらず、世間はコロナ、コロナで騒がしい。が、ただの風邪や下痢でも、後でひどい病気を引き起こすことがある。

62歳の女性。4、5日前から、両方の足に力が入らないようで、ふらつくようになった。「脳梗塞では？」と、夜も眠れない。だが、症状は両側だ。しかも、突然、麻痺が起きたわけではない。となれば、脳梗塞や脳出血は否定できよう。

もちろん、腰から上の脊椎の病気もチェックしなければならぬ。が、医者としては、「最近、風邪のような症状はなかったか？腸炎は？」とか、「ワクチンを打ったか？」などという質問も欠かせない。ギラン・バレー症候群（GBS）という病気も考えておかなければならぬのだ。

GBSは100年以上も前に発見された病気だが、その原因は、まだよく分かっていない。細菌やウイルスの感染、ワクチン接種などにより免疫系に支障がでる。その免疫系が誤って自分自身の神経を攻撃してしまっただけ。しいては、全身にある

末梢神経が炎症を起すこともあろう。

多くは、感染症などの後、1〜3週間経って症状が出る。まずは力が入りにくいという筋力低下が足から腰に現れる。さらに胸から腕など、身体の下から上のほうへと進行していく。

4週間くらいでピークに達し、その後自然に回復していくとされているが、最悪は、嚥下や呼吸までしにくくなることだ。死亡率は2%未満というが、後遺症に苦しむひとが20%もいるという。

早く見つけて早く治療すれば、大事にならない。ただの風邪か、などとバカにしないでおこう。しばらくしてから、なんとなく足が重い、片足で立ちにくい、瓶のふたが開けにくい、などということはないか。GBSは若いひとにもみられる。が、意外と筋力低下に鈍感なひともある。

（石黒修三いいしへろクリニック・脳神経

外科専門医…12/29 北國新聞掲載）